

新型コロナウイルス感染拡大防止対策による本会事業の対応について

新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、各地でのイベント等が延期や中止になりましたが、本会においても皆様の安全確保と感染拡大の回避を最優先とし、本会主催の事業の開催を中止とさせていただきます。

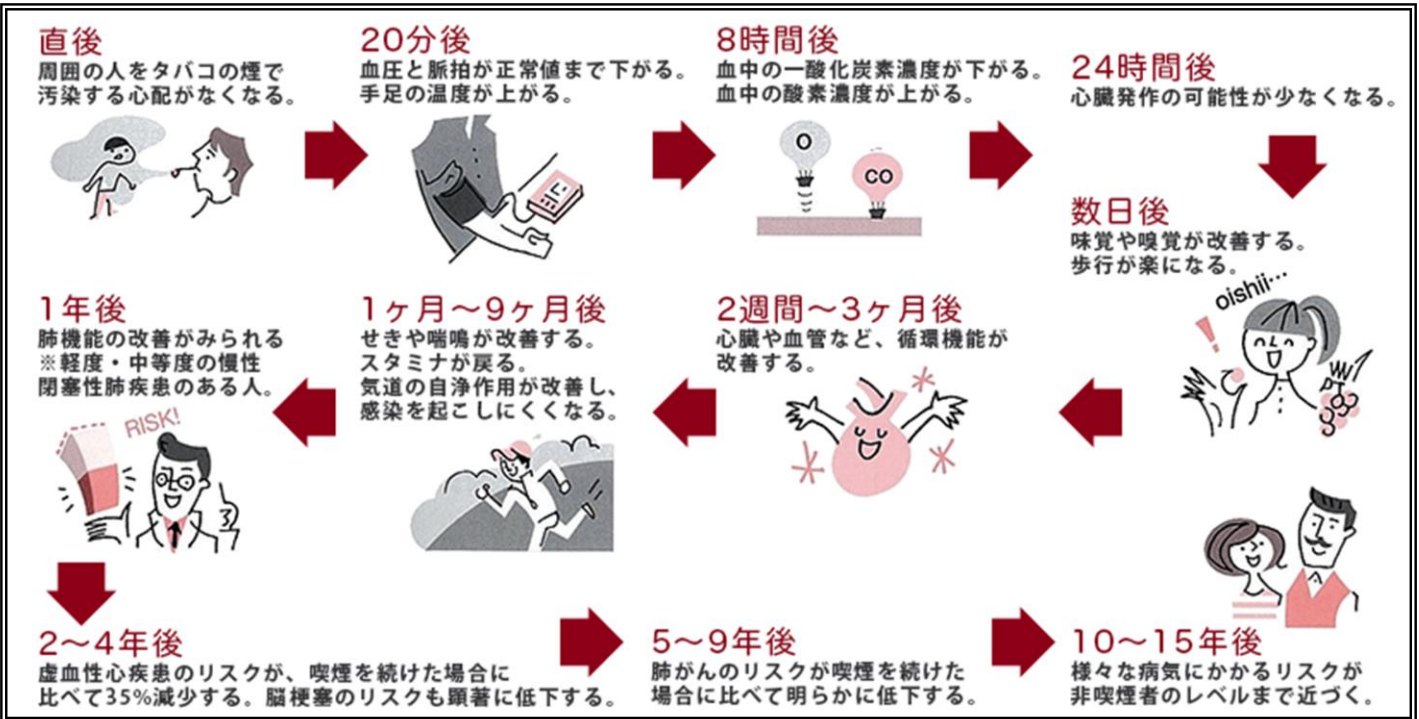
ご予約をされていた皆様には大変申し訳なくお詫び申し上げますと共に、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。今後の本会事業の開催につきましても予定変更が生じる可能性が出てきます。ホームページ等にて随時お知らせいたしますので、ご確認いただきます様、併せてお願い申し上げます。

喫煙が及ぼす「口腔」そして「生命」への影響

タバコの煙には数千もの化学物質が含まれています。そのうちニコチンを含む有害物質は200とも300とも言われています。タバコの煙が喫煙者の口腔へ及ぼす影響は、口臭やヤニの沈着だけではありません。喫煙により歯肉が硬くなるため、腫れや出血という炎症の信号が抑えられてしまい、歯周病に罹患していても気づきにくいという状況に陥ります。また、喫煙者は歯周病に罹患しやすく、重症化および治りにくいということが解っています。喫煙者における歯周病の罹患度は、1日10本以上の場合、非喫煙者の5.4倍、10年以上の喫煙では4.3倍に上昇していたという報告があります。（日本臨床歯周病学会 HP より引用）

しかし、長年に渡って喫煙をしても、禁煙が遅すぎるといことはありません。「禁煙は性別・年齢・喫煙による病気の有無を問わず、すべての人々に大きくかつ迅速な健康改善をもたらす」ということをアメリカの公衆衛生長官が1990年に報告しています。その内容は、禁煙すると24時間で心臓発作のリスクの低下がみられますが、その後比較的早期にみられる健康改善には、せきやたんなどの呼吸器症状やインフルエンザなど呼吸器感染症にかかる危険が低下することがあげられます。（図）

（厚生労働省 HP e-ヘルスネットより引用）



「みんなで守ろう新しいタバコのルール」の巻

令和2年4月から新しいタバコのルールがスタートします。飲食店やオフィス、工場、ホテルや旅館など、人が多く集まる施設の屋内では原則禁煙となります。また、学校・病院・行政機関の庁舎等では、屋外を含め敷地内全面が禁煙になります。



～ 事務員電話対応時間のお知らせ～

令和2年4月1日より、事務員電話対応時間が以下の通りになります。
月曜日～金曜日(祝日除く) 10:00～12:30, 13:15～16:30